

助成年度：平成 14 年度

[所属] 東京大学大学院 工学系研究科

[役職] 助手

[氏名] 中島 直人 (他計 4 名)

[課題]

風致地区における官民協働の環境保全型まちづくりに関する歴史的研究

— 風致協会の 70 年 —

[内容]

本研究は、既往の研究では充分には明らかになっていなかった風致協会の活動の全貌を、第一に、各地域、各風致協会の個別の事情を踏まえた各風致協会の「個別的な展開」から、第二に、風致協会の活動を、東京府に限定し特殊事例として扱うのではなく、その「全国的な展開」から、第三に、従来のように設立期（昭和戦前期）に限定して、風致協会を歴史的事象としてのみ扱うのではなく、その幾つかが戦後、そして現在まで活動を続けているその「時間的な展開」から、明らかにしようとするものである。

最終研究報告書は、第 2 章でこうした風致協会活動が生成してくる背景について、特に 1920 年代後半以降に見られる「保存」と「利用」を両立させようとする新たな保勝理念の影響下で、北村徳太郎によって風致協会の設立が着想されたことを、先ず整理した。

以降、上記 3 視点に従って、第 3 章では東京府での風致協会設立の経緯と風致協会の特徴、そして、それぞれの風致協会の戦前期の活動を整理した。第 4 章では東京府以外の風致協会の事例について、現在判明しているものについて整理をした。第 5 章では、戦後の風致協会の活動の消息について言及した。

以上より、風致協会の活動は、1920 年代後半以降の「保存」と「利用」を両立させた保勝理念に基づいた実践的な活動として、歴史的意義を有することが明らかになったものの、戦後、財政基盤の脆弱性、そして、風致地区の枢要部の公有化によって、その活動の多くは潰えてしまった。すなわち、官民協働の理念の下に潜む、民側の財政基盤の確立と、官民の役割分担という問題が、こうした歴史的事象からも浮き彫りになってきたのである。